

# きずな 2015

上川管内公立小中学校事務職員協議会  
発行者 広報担当者 我妻 誠(比布中)  
eメール: [the.haguki@gmail.com](mailto:the.haguki@gmail.com)(ザ・ハグキ)  
FAX: 0166 (85) 2145



第4号 2015, 12, 9

## 全道事務研究大会に行ってきました！！号

今号の発行が予定より大幅に遅れてしまいました。原稿作成にご協力していただいた会員の皆様には大変ご心配をおかけしました。申し訳ありませんでした。

\*\*\*\*\*

すっかり、景色は冬と化しております今日この頃、みなさまいかがお過ごしですか？

こちらは、さっそく・・・「節電！節電！！また節電！！」（本校は電気暖房なので）・・・と。

職員からは「電気の呪術師」のような目線で見られる日々です。

学校の子どもたち（中学生ですが）は寒そうですが、元気で生活しております。

快適ではなくても、そこから何かを学べば、それはとても大切なことだと思います。それが人生の糧となるよう、私たちは啓蒙していかなければなりません。

(単なる言い訳)

全道協議会としては、大成功の大会であったとのこと。また、今年は分散会参加受付簿でのカウントであることから、報告者数よりも多くの参加者と感じました。



### 講演「石狩市手話に関する基本条例」

の制定とその後の変化

講師 石狩聴力障害者協会  
会長 杉本 五郎 氏



石狩市の手話基本条例が制定されていった取り組みのお話をいただきました。

条例が可決された時、議事を休憩にしてもらい、その場で記念写真を撮ることができ最高の瞬間であったとのこと。

市長や、市民の理解があり、取り組みの輪がどんどんと広がっていった様子を、パワーポイントを駆使し、手話でお話し(手話通訳の方が2名おりました)されました。



手話と言っても、手や腕だけではなく、体全体や口を動かす(言葉も出ます)など全身を使い、1時間強講演されます。

石狩市を手話で挨拶が出来、どこでも手話で会話の出

## 北海道公立小中学校事務研究大会



9月17日～18日に札幌市のホテルライフオートで行われた「北海道公立小中学校事務研究大会」(またの名を全道事務研、

全道研等々、人によって様々ですね)の報告です。

今年度は、開催地を北海道の中心(人数的な?)札幌で行い、担当は旭川支部で行うという、初の試みでした。

結果的には、近年を上回る参加者を集めることが出来、

来る街にしていく。

これからも進んでいくとのお話しをいただきました。

これまでも、石狩市内の学校や様々な施設に赴き、たくさんの方へ講演してきました。

それら講演でのアンケート回答の中に、「私たちは不便であるが、不幸ではない」という言葉が印象的であった」との回答がありましたが、その言葉は今回講演を受けた大勢の方も感じているのではないかと思います。

最後は拍手のやり方を教わり、会場のみなさんによる盛大な手話の拍手で締めくくられました。



パチパチでは、聞こえないために分からないので、手を挙げてヒラヒラすると拍手の様子が分かる（説明）そうです。拍手の様子はとても迫力がありました

会場を見回して感じたことは、拝聴のみなさん、もの凄く真剣に聞いておりました。



そして拍手の時もそうでしたが、みなさん笑顔でした。ボディランゲージ、体を使った会話について、改めてその底力を感じているところです。

これは、きっと子どもたちや学校現場でも、応用できるのではないのでしょうか



拍手の時のみなさんの表情はとても印象的でした。

手前の女性2人は手話通訳の方です。やはり笑顔

### 全体会

## 「GO! STEP UP! ～明日につなげよう～」



続きまして全体会です。

今回の全体会は、経験年数の少ない方々によるインタビュー形式の討論でした。



内容については、日ごろの感じていることや、戸惑っていること、自分たちの役割について等、若い方が誰しも持つ（自分も未だに持つ）感想について話し合っていました。

・・・ほぼ、同じような思いでしたので、私もまだまだ若いんだな！と、思ったとか、思わなかったとか・・・



ひとつ言えることは、みなさん、とても堂々としていて、非常に落ち着きがあり頼もしく感じました。

これからの事務職員は安心ですね！

このことを実感することが出来たことが1番でした。

見方を変えると、若い方々がのびのびできる雰囲気、が全道にあるのでしょうか。

# 全道事務研 分科会レポート

それでは、ここからは研究大会の花形！  
分科会の様子についてです！

5分科会による会場が設定されておりました。  
そして今回は、5名の方に会場の様子や感想など、感じて  
いただいたことをレポートしていただきました。

お忙しい中、即座にレポートをいただき、仕事の速さ  
にとっても驚いているところです！

みなさん、快く引き受けて下さり、本当にありがとう  
ございました！！

どのレポートも、ハートにドスンと響きました！！  
みなさん、熱いです！！

第1分科会「学校財政財務活動の具体的展開」

朝日中学校 坂 拓見さん

第2分科会「保護者負担の現状と公費化の取り組み」

富良野西中学校 明石 昌人さん

上川のレポート発表のある↓

第3分科会「学校づくりと学校事務」

美深小学校 吉田 和也さん

第4分科会「学校運営と事務職員」

士別中学校 有賀 陽平さん

第5分科会「子どもの教育権を保障するための財政財  
務活動 ～財政財務活動のイメージを  
共有しよう～」

樹海中学校 山本 孝暢さん

改めて、感謝申し上げます。

## 第1分科会「学校財政財務活動の具体的展開」

第1分科会に参加して

朝日中学校 坂 拓見

今年度の全道事務研はちょうど学校祭終了後での開催ということもあって、それならば足を運んでみようかとい  
うことで札幌大会に参加してきました。

蓋を開けてみれば、第1分科会は上川管内からの参加者がほとんどい  
なかったため、私が上川の代表として何か喋ることができるかどうか不安で  
ありましたが、幸いにも（いや残念なことに）私は発言する機会がほとん  
どなく、杞憂に終わりました。

さて、分科会では討議の柱：財政財務活動の具体的実践を主題において  
議論が進められました。1日目はそれぞれの問題提起者の発表から始まり、  
小樽市の財政状況、空知管内の子どもアンケート実践例、苫小牧市の予算増交渉奮闘記、室蘭市の管理備品更新記  
録などどれも興味深い実践例を聞くことができました。（ここではページ数の関係上、内容は割愛します。）

問題提起終了後は司会者の提案に沿って、各管内での実践例交流の時間となり、具体的には消耗品についての取  
り扱い方や市町村経理で融通できる範囲（他の費目として流用は可能かどうかなど）について意見を交わしました。

おおまかにどこの市町村も経理の流用は許されているようでありましたが、少ない予算でどう学校や子ども達に  
還元させていくかという課題はどれも共通なんだな～と話を聞いてて実感しました。

2日目は各管内での予算要望に対する議題から始まりました。

議論の際には、予算要望時における事務職員ならではの葛藤（事務職員1人でやれることの限界や非協力的な先  
生との対応方法など）を話されており、同じような悩みを共有することができました。

そして、効果的な要望をしていくには長期的な視点をもって先生方や生徒たちから必要なもの、修繕してほしい  
箇所などをその都度押さえていくことが重要であることを再認識させられました。





次に学力テスト等の保護者負担軽減状況についても意見交換が行われました。特に面白いなと印象に残った取り組みは深川市では漢検や英検用の特別予算があるとのことで、うちのような10人集まらなければ受検できないへき地校にとっては、検定費用を市で負担してくれているのはなんとも羨ましい政策だと思いました。

最後に2日間の分科会にあたって、今回の助言者である北海道地方自治研究所の辻道氏と旭川近文第一小の高橋氏から今回のまとめを述べていただきました。両者とも予算要望活動を行っていくうえで、子ども達にもっと学校のことを意識してもらい、学校づくりに参画してもらうことの重要性を説いておりました。

というのも、行政は地域や子ども達の声を重視して市政を行っていくので、子ども達と一緒に学校のことを考え、共通理解を深めることができれば、財政財務活動でも具体的な展望が見えやすくなるだろうということをお話しいただきました。

そのためには、学校事務も「教職員」として、もっと自発的に子どもたちと接する時間を作り、行政に対しても粘り強く交渉していく姿勢を常に持っておかなければならないというアドバイスをいただいて、今回の第1分科会は締めくくられました。

今回の全道研に参加しての感想ですが、議論には参加せず（いや、できず）、2日間とも討議について行くだけで精一杯だったというのが率直な感想です。

そのため、参加してとても勉強になった！さあ、帰ってさっそく実践しよう！という感想よりも、まだまだわからないことだらけだと、打ちのめされた印象でした。

特に、予算要望の議論の際に、十勝支部が行っている「サマーヒアリング」について、他の方たちが盛り上がっているのを横目にあまり理解できず、なにもわからずに話を聞いている状態でした。（そして、実際にこのレポートを書いているときにうまく反映できずにいます。）しかし、わからないことが多いのであれば、まずはわかることからだけでもしっかりと吸収していきたいと思っています。

わからないなりに聞いていたといっても、子どもアンケートの実践方法や反映方法、その結果をもとにした教育委員会との交渉例などはとても参考になり、こちらは土別ブロックでの取り組みにも活用できるのではないかと思います。

分科会でもらった分厚い資料、帰って読み返すのもなかなか苦勞させられそうですが、記憶が新しいうちに、しっかりとフィードバックさせようと思います。



## 第2分科会「保護者負担の現状と公費化の取り組み」

### 第65回北海道公立小中学校事務研究大会参加報告

富良野市立富良野西中学校 明石昌人

第2分科会では「保護者負担の現状と公費化の取り組み」のテーマとし、石狩支部 北広島市・渡島支部 知内町・胆振支部 安平町より三本のレポート発表がありました。

討議の柱は 1. 保護者負担についての交流 2. 財政財務活動の推進と公費化（軽減）の取り組みについて 3. 就学援助制度の現状と課題の3点が設定され2日間の議論が展開されていきました。

1日目は研究発表の後、まずは保護者負担軽減についてと公費化の取り組みの交流が行われました。私費・公費の線引きでは個人に返す物は私費負担との考え方が多くあるが、小学校6年間、または中学校3年間で数回しか使用しない、例えば彫刻刀を私費負担で集めている実態が当たり前にある。しかし、数回の使用であれば公費で学級分を用意し、それを管理し使用すれば保護者負担を軽減できる。また、少額でも同じように1回または数回しか使用しない物を簡単に保護者から集金するような実態もあるのではないかという議論もなされていました。



保護者負担の軽減を行うためには、①私費負担経費を見直し公費負担に変える ②副教材等を見直し、精選する ③就学援助制度を最大限活用するなどがあります。助言者の方からも子どもの貧困率が16.3%、6人に1人が「貧困」とされる現状において、保護者負担軽減は仕事のベースとして考えて行かなくてはならないとお話もありました。①②については校内では実態をしっかりと把握すること、そして事務職員だけではなく教員や学校で働く様々な職員の意識改革を行い、少額でも構わないのでできることから公費化へのとりくみを進めていくことが重要です。③については認定基準の見直しなど厳しい現状もありますが、学校としては制度の内容をできるだけ丁寧に保護者に周知し、子どもの教育を受ける権利を保障していかなくてはなりません。

いずれにしても学校予算の獲得や保護者負担の軽減については学校独自ですすめられることは限られていますので学校間連携会議などを機能させ教育委員会や市町村理事者へ現状を訴え予算獲得へのとりくみも進めていかなくてはならないと感じました。



最後になりますが、旭事協による初めてのライフオートでの全道事務研開催、全体会の GO! STEP UP! ~明日につなげよう~での若い事務職員のしっかりした考え方や意見を聞き、

非常に元気をもらえる2日間となりました。この2日間の学びを少しずつでも日々の実践につなげて行こうと強く感じました。

素晴らしい大会をありがとうございました。

## 第3分科会「学校づくりと学校事務」

北海道公立小中学校事務研究大会 第3分科会に出席して

美深町立美深小学校 吉田 和也

なぜ第3分科会なのか、それは上川のレポートが提起されるということがきっかけでした。私は今年度異動になったので、上事協の共通目標である「教育環境整備の推進」が具体的にどのようなものなのか、いまいちわからなかったので参加することにしました。

宗谷支部・函館支部ともに学校における防災対策についてということで、レポートが提起されました。

地域の特徴を知ることから始まり、災害の危険性がどこにありどのような自然災害が想定されるのかを確認し、学校施設内外の問題、災害への対策等が検討されました。





自身の地域は内陸にあり、昨年度は吹雪による臨時休校があったそうです。富良野方面で吹雪による交通障害があった話を聞いたときは他人事ではないと感じましたし、自分も同じ立場になったとき冷静な対応ができるのか、体験しないとわからない、つまりは実感が湧かないことに不安を覚えました。

施設の問題として東北の地震の際小学校の体育館が避難所になったが倒壊し亡くなった方がいたという話を聞き、はたして避難所は絶対安全なのか。

私は絶対ではないと感じました。

学校施設の修繕に関わる問題と捉えていいことで、必ずしもとは言いきれませんが修繕を怠ることは安全の崩壊に繋がる一つの要因になるのは間違いないでしょう。ただ、現実として避難所としての学校における課題は解決されることはないとのことでした。

私は教育としての学校と避難所としての学校はイコールでなければならないと思っています。

助言者である校長先生から災害時に状況を把握し判断するのはとても難しいと話がありました。そのときにならないと判断できないのが正直なところである、そのためにも日頃から防災意識があるか、職員・教頭との連携が図られているかが重要で、いざ判断するときはみんなの声を聞いてからになるとも話をされました。

実際に災害が起きないとどう行動すればいいのかわからないのは管理職に限らず我々も同じことが言えるでしょう。対応の遅れに繋がることになれば、大事になりかねないのは明白です。普段から誰が・何処で・何をするのか具体的に話しをしてみると、たとえ管理職がいなくとも対応できるのかなと考えます。

今回の防災に関する提起で私自身が実感したのは、認識の甘さです。地域の危険箇所、災害の実態、施設の問題、全てにおいて知らないことが多すぎて、心のどこかで「自校は大丈夫だろう、避難所になるほどの災害は起きないだろう」と思っている自分がいて、そのことが避難の遅れ、被害の拡大に繋がるのだと思い、改めて日頃から意識することの大切さを学ぶことができました。

上川のレポートでは上事協の検討課題「教育環境整備」における中央ブロックの取組について発表がありました。前段として中央ブロックの会議の現状、教育環境整備における3つの視点「ひと的整備」「もの的整備」「かねの整備」の説明がなされました、中央ブロックは教育環境整備を「学びの場」、「育ちの場」として考察し、学校づくりへ繋げていくというものでした。

研修としては1年目に、学校間連携のなかで教育環境の整備の強化及び定着に努め、学校における問題の共有化すること、2年目は研修の方向性の検討・決定、学校間連携の重要性の確認がなされたそうです。

また、各学校の取組を定型様式を使って交流・蓄積、自治体を越えた交流手段として上事協ウェブの活用をする取組を行ってきたということでした。定型様式「教育環境整備実践報告」を使用し実際に行われた交流についても紹介され、各学校の課題、実践内容等が紹介されていました。

私は、上事協 Web について一つの学校が提案・実践し、結果がどうだったのか検証することで改善ポイントを洗い出し、それを踏まえ他の学校も実践する。このサイクルこそが、上事協 Web の強みであると感じました。またこのようなツールは上事協だけでなく、他管内の協議会においても重要視されることで、例えば学校間連携が希薄になりがちな地域、地理的に研修に参加したくてもなかなか参加できない場合においてもっとも簡単に誰でも参加できる交流ツールになるのではないかと考えます。





中央ブロックの研修の結果様々な波及効果が得られることになり、そのなかでも私が注目したのは、研修の参加意識が高まったことです。

研修は若年層にとっては学びの場であり、ベテラン層にとっては今までの経験を若年層に伝えていく場で世代を越えてたくさんの交流ができる唯一の場所だと思っています。

しかし、参加者が固定化される、参加しないといった問題があるのも事実です。

これは全道における問題といえるでしょう。

そんな中での中央ブロックの研修の結果は問題を解決する一筋の光であることは間違いないと言えます。

助言者である久保さんが上川のレポートのような様々な実践の積み重ねによる課題・現状の検討は今後大事になってくると仰っていました。上川のように誰しものが実践者であり、その実践の積み重ねは共有化することで各世代における事務職員相互の関係を築く大事な基礎になると思いました。

今回第3分科に参加してみて、私はかなり勉強させていただいたと感じています。今後は上事協の一員として研修・実践に力を注ぎ、自校における「教育環境整備」のとりくみを進めて行きたいと思っています。



## 第4分科会 「学校運営と事務職員」

第4分科会 「学校運営と事務職員」

士別市立士別中学校 有賀 陽平

第4分科会の問題提起は、留萌支部の【OneDrive「萌燎」の活用について】と檜山支部の【「事務だより」をつくらう!】でした。

留萌支部は、インターネットのクラウドサービス・OneDrive「萌燎（ほうりょう）」を利用し、管内で情報を共有、交流している実践を報告していました。萌燎は、納得するまで追求し、独自に作成したファイルをアップしているようで各種手引や実務資料、エクセル様式集など共有ファイルが充実している印象がありました。

檜山支部は、事務だよりの作成課程や職員にアンケートを取り感想・意見を集めたこと、事務だよりによって事務職員の研修や職務内容を教員や保護者に知ってもらうことができたことなどの実践を報告していました。



討議の柱は【1. 教育情報に関わる各支部の実態交流について】、【2. 情報の取扱いについて、共有化、共通認

識を探る】、【3. 望ましい研修の活性化について考える】でした。

1と2に関しては、引き続きインターネットによる情報交流や事務だよりについての様々な事例を意見交換しました。助言者の山部中・菅原さんとそのとき会場にいた比布中・我妻さんからはスクリーンで上事協 Web について紹介していただきました。

助言者の2人からは、ICT を使わざるを得ない状況の時代であるので素晴らしい機能はどんどん利用して行くべき、距離的に会うことが難しい中、インターネットが有効であるのは確か。事務職員にはそれぞれ得手不得手の分野があるのでいろいろな媒体で共有すべき、得意分野を発信して活躍して欲しい。事務だよりは知って欲しいことや自分の考えを職員に情報伝達することに有効的。保護者向けは保護者と学校を結ぶツール。学校から複数の通信が配布されているので学校だよりの一部に載せることもあり。などと総括されていました。

3に関しては、研修テーマの設定や内容について交流しました。参加者も意識を持って参加し、楽しかった、成果になった、というような研修を行うことが大事と意見が出ました。具体的な内容は、新採用者向けの学習会、学校訪問、校長、ベテランや他管内の事務職員からの講話、市町村職員や地域おこし協力隊からの講話、ICT 教育を子どもたちに教えている方呼んで iPad の使い方講座をしているなど各支部から報告がありました。

助言者の菅原さんからは、十勝の方が発言した【来る・話す・持ち帰る】を意識した研修は良いこと。最初からテーマを決めない研修もありで、気軽に参加して新しい発見が生まれ、持ち帰って実践する、これを基本にすれば良いと述べられていました。

私は今回の全道事務研が初めての参加でしたが、他支部の実践をたくさん聞くことができ大変勉強になりました。事務職員間や地域・保護者と学校間で情報を共有すること、伝達することの大切さを学ぶことができました。今回の経験を今後に関し実践していきたいと思えます。



(休憩中に上事協 Web の確認※分科会で紹介のため)

## 第5分科会 「子どもの教育権を保障するための財政財務活動 ～財政財務活動のイメージを共有しよう～」

「研修の成果とは？」～第65回北海道公立小中学校事務研究大会に参加して

富良野市立樹海中学校 事務職員 山本孝暢

参加した分科会

第5分科会 子どもの教育権を保障するための財政財務活動  
～財政財務活動のイメージを共有しよう～

- ▶分科会討議の柱1 学校財政財務の現状
- ▶分科会討議の柱2 保護者負担の現状



公的な研究大会記録は、全道協議会機関誌「北響」に掲載されますので、ここでは、個人的な感想を交えながらの記録とします。まず、2日間の内容を、順を追って

①全国派遣事業で全事研熊本大会に参加した職務検討委員2名(岩崎・後藤)からの報告

お二人から丁寧な記録(冊子)をもとに、文部科学省の行政説明、本部研究分科会でのこれからの学校の在り方、宮崎の新たな学校事務の構築等のお話。

②先に実施した『「学校財政財務活動及び保護者負担」に関する全道アンケート調査(会員向け)』及び『「公費私費負担区分」に関する市町村アンケート調査(市町村代表者向け)』における設問の狙いと、調査結果についての報告が行われた。～報告内容省略(いずれ配布されるでしょう)～

③職務検討委員5名及び協力者2名～山崎(恵庭市和光小)、端(上砂川町上砂川中)によるパネルディスカッションが行われ、全道アンケート調査と関連した6本のテーマに沿って論議がすすめられた。  
校内配分予算及びその「重点の説明」、「決算」のこと、保護者負担の把握、公費市費の区分などをテーマにパネル(職務検討委員)と協力者で討議。全道の期待の星、我が上川の誇り天野(鷹栖町北野小)さんからも「予算の数字は重点を説明・理解を深める上での根拠の1つ。数字から展望を語れることの方が大切では。」と鋭い指摘もありました。

④グループ討議(2日目)～4グループに分け1時間40分ほどの討議、参加した2グループの報告。  
討議の柱2点に沿って討議。予算については職員会議でしっかり議題にする。印刷経費など、データの蓄積と比較での職員への周知が効果的。給食費の公会計化をすすめている。子どもに係るお金は将来社会に還元される。受益者は社会全体である。教育費のことを、社会全体に対して問いかけをする必要ある、もっと大きいところを動かしていく・・・等々の話し合いがありました。

◎まとめ(協力者から)

▶財政財務については、様々な課題を把握しつつ、次への一歩のために、活動のサイクル化を意識して取り組んで欲しい。サイクル化することで、取り組みの共通理解が進み、反省をし、課題を把握して、更なる取り組みに繋げることが出来る。(山崎)▶時代は変化しても、私たちが進めてきた「教育や子どもを意識して職務を進める」ことにはなんら変わりがない。これからは課題をしっかりと見つめつつも、着実に「私たち自ら取り組みを進めていく」ことが重要。(端)

※研修とは～「学校事務」2015年2月号の連載から抜粋

▶研修は新たな知識を得る(インストール)ために受けるのではなく、知識を更新する(アップデート)ために受けるもの。▶研修で学んだことを実際に学校に持ち帰り、その業務の中で活かして成果を上げたときに、その研修は成功したということになる。

※本校では

▶継続～2015年度後期の市経理等の執行計画を10月職員会議で提案。データということで前期(9月末時点)の管理運営消耗品や教育振興費(各教科や視聴覚予算)中間決算を報告。この頃面倒になってきて手を抜きたかったが・・・▶新規～いままで他の方が担当している、農園会計に口を出しつつ、保護者負担軽減を企み始めています。果たして、年度末までに、これらは今研究大会に参加した成果となって表れるか!▶最後に、運営された職務検討委員会の皆さん、お疲れ様でした。



みなさん、お疲れ様でした。

参加された方も、参加できなかった方も、また来年度、盛り上げてまいりましょう！！

# 上事協懇親会

第1日目の9月17日、狸小路6丁目にあります「紅燈籠」(ホンタンロン)にて上事協懇親会を開催いたしました。

第3分科会にて司会・研発の大役を果たされました、鷹栖小・坂田さん、当麻小・藤井さん、東川第二小・紙谷さん、第4分科会で助言者として討議を盛り上げておられました山部中・菅原さんにもご参加いただき、総勢22名の参加となりました。

ホンタンロンのメニューは、「食べ放題・飲み放題」コースというユニークなものでしたが、「3卓あるテーブルに全て同じ注文を出さないといけない」、「しかも一度の注文は5種類まで(テーブルには5品まで。無くなり次第追加可能)」という厳しい(笑)ルールでした。



3卓全て同じ注文、ということからリクエストは全テーブルでの合意がなければ発注できない、TPP もかくや、というとてもシビアで緊迫した中での進行でありましたが、そこは予算要求のプロ集団！みなさん、駆け引きがすばらしく、お腹いっぱい大満足の懇親会となりました。

話題も研究大会から日ごろの事まで、とても盛り上がっておりました。

一次会の終了後は さすが札幌。

みなさんあっと言う間に次へと消えていったのでした……。どこへ行ったのやら……。 (笑)

## 「きずな 冊子版」原稿大募集!!!

きずな冊子版のご案内です！

日ごろ感じていることや、面白い体験、等々大募集です！

実は私も上川に戻って20年振り、3年目ではありますが、この「きずな」は、非常に面白く読んでおりました。

みなさんの書きたいことや、やってみたいこと、やってみたこと、非常に興味深く楽しんでおります。

今回も、たくさんの想いをお寄せ下さい！

締め切りは 1月29日(金)に決定！

宛先は、比布中学校 我妻 誠 までお願いします。

e-mail [the.haguki@gmail.com](mailto:the.haguki@gmail.com)

〒078-0322 比布町北2線8号 比布中学校



レンケイジャー！® 富良野小 小林さん作